

市民活動による社会介入に関する 評価の適用の副作用 休眠預金活用制度も手掛かりに

静岡県立大学 津 富 宏
(キャンベル共同計画日本代表)

専門 犯罪学 評価研究

もともと、少年院の教官(1983-2002)

1986-1988 評価研究を知る

Campbell and Stanleyなどを読む

1988 Rossi 第4版を読む

1999年ごろ EBMに関心を持ち導入

2001-現在 キャンベル共同計画に参画

批判的吟味、ランダム化比較試験の本などを翻訳

広島県のお手伝い、市民セクターとの評価の勉強会など

評価の適用の副作用とは
評価コストのことではありません
評価そのものがもたらす
「害」のことを言います

市民活動による社会介入への評価の適用の背景

当初は、ビジネスに適用

プリンシパル=エイジェント理論による成果主義の導入

株主（投資家）の期待に沿った「成果」の追求

アカウンタビリティ（会計説明責任）の導入

期待に沿うことによる、資源・正統性の調達

市民活動による社会介入への評価の適用の背景

ついで、行政へのアカウンタビリティの導入

さらに、行政の民営化(ビジネス化)に伴う導入
公的サービスの「準市場」化

さらに、市民活動のソーシャルビジネス化に伴う導入
「社会的インパクト評価」

リモートなコントロールがもたらす専門性の軽視
結果／成果(アウトプット、アウトカム)の重視
そこで何が起きているかではなく、「指標」に着目

The more any quantitative social indicator is used for social decision-making, the more subject it will be to corruption pressures and the more apt it will be to distort and corrupt the social processes it is intended to monitor. (Campbell, 1979)

監査文化 (audit culture) (Shore and Wright, 2000)

「監査」の語が、会計分野から拡大適用

品質保証、認証、説明責任、透明性、効率性、適正な実践、ステイクホルダー、外部評価などの語と連合して使用されるようになった

新経営主義、新自由主義を背景に拡大した
新たな形式の統治・権力装置

新たな類の主体性／服従性、すなわち、自らを監査可能とするように自己管理をする個人を創出する装置

市民活動とは 自分ごとの活動

ビジネスとは異なり

自他を切り離さない

「対象者」をつくりださない

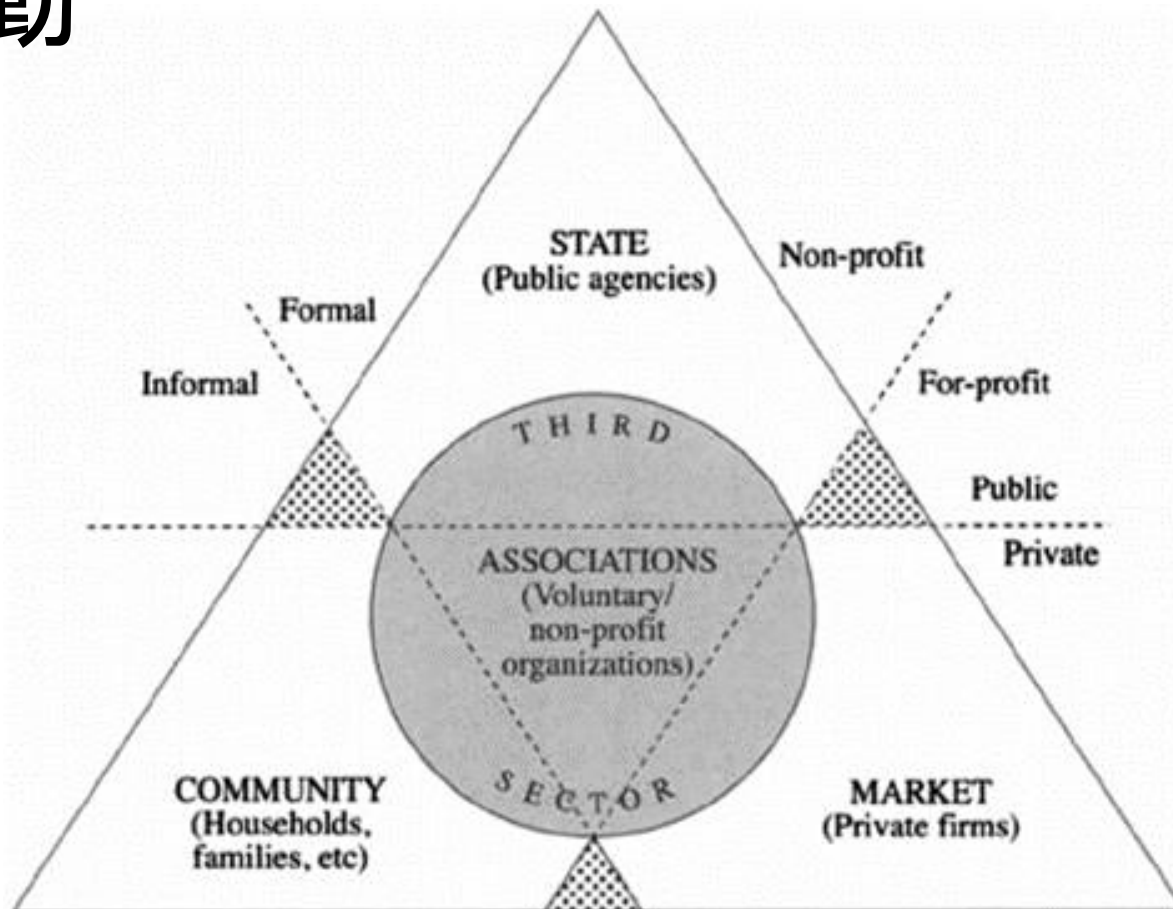
支援—被支援関係をつくりださない

「相互性」に基づく

「サービス提供」「事業」ではない

相互支援としての 市民活動

再分配



互酬

交換

ペストフの三角形

Self-
reflection
としての評価

自分ごととし
ての評価



評価の目指すもの(私の考え)

社会(=自分たち)を改善する
一般的には、PDCAと言われる

これにあたって、害を及ぼさない(Do no harm)こと、副作用をもたないことが重要
「介入」の基本原則

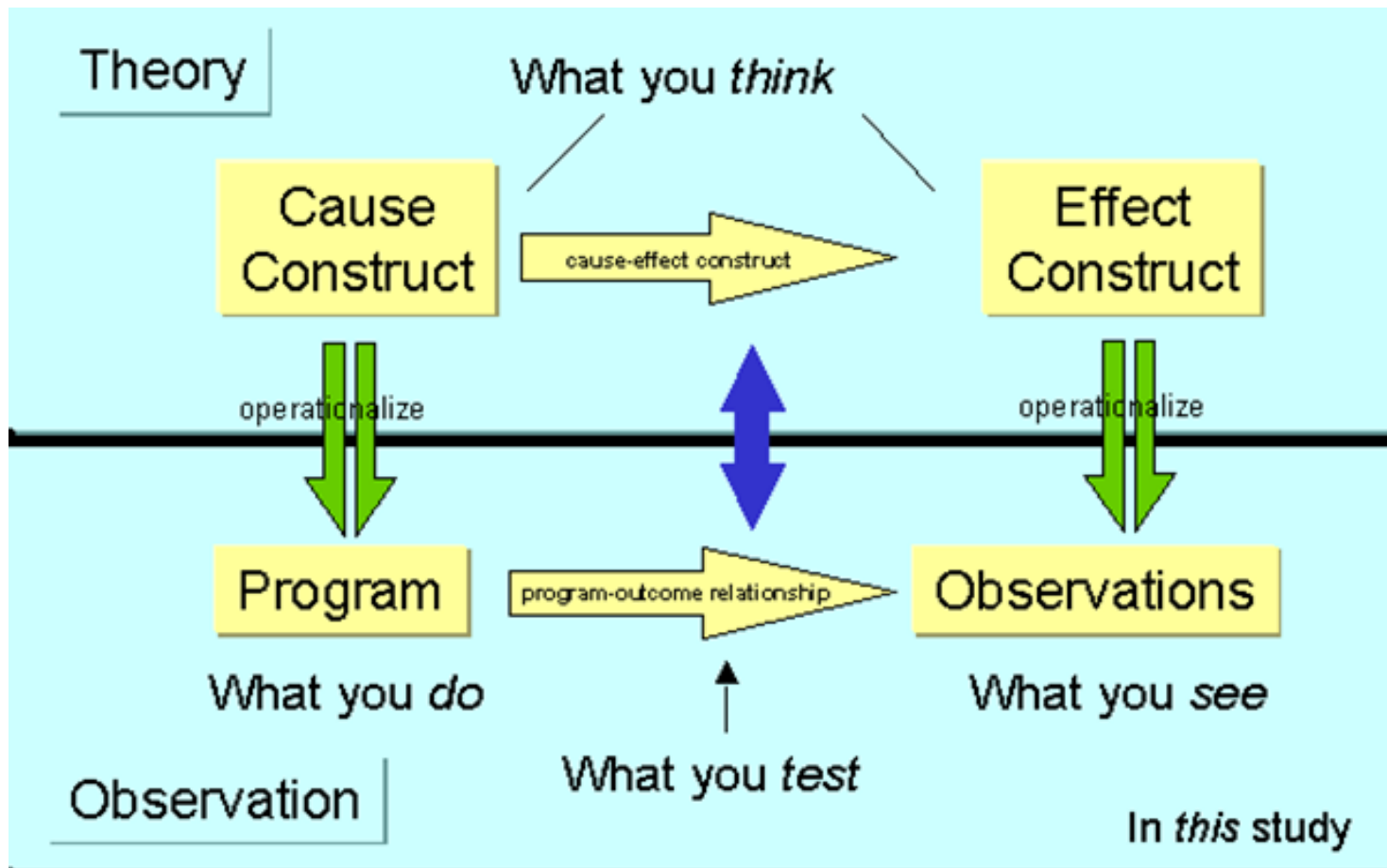
評価とは

理論レベル
知のコモンズ

往還



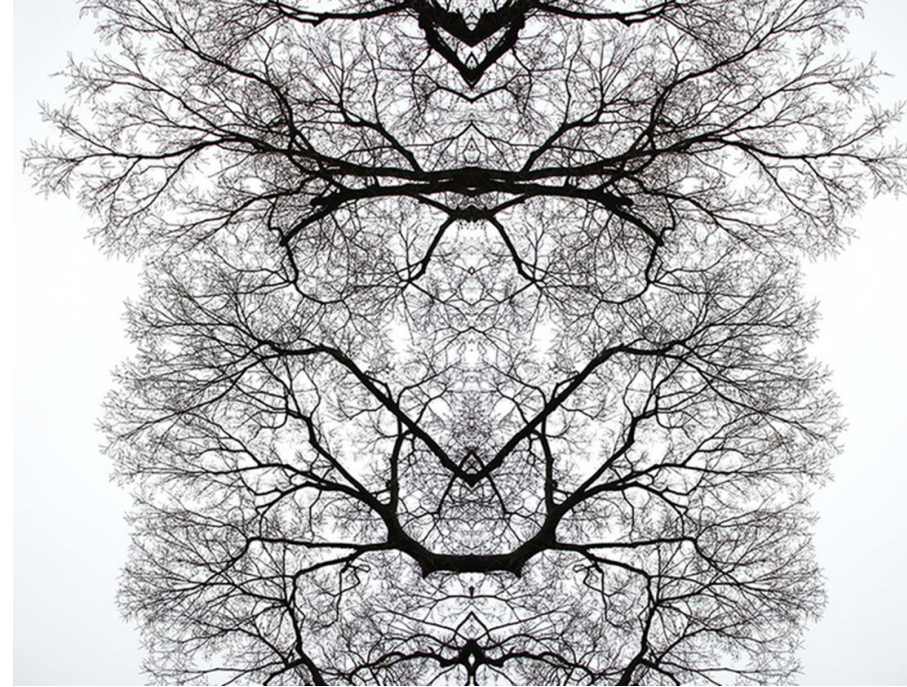
実践レベル
ケアのコモンズ



社会とは

ラテン語で「親交、友愛、絆」を意味するsocietas(ソキエタース)からできた言葉で、さらに遡れば「仲間」、「友」を表すsocius(ソキウス)という語に由来する

社会とはつながり、連帯



改善するとは

実践を通じた、理論の改善
理論(仮説)検証としての実践
対立仮説の棄却に価値がある

例えば

理論： 認知行動療法の理論

実践： 現場における認知行動療法の実践

往還を通じた、コモンズ(共同体)の成長

評価の適用のもたらす副作用とは

評価の適用によって、かえって、社会が改悪
されること

評価の適用のもたらす副作用①

特定の指標を重視することによる活動のゆがみ

例 テスト範囲のみを「学ぶ」

例 体重を気にしすぎる(摂食障害)

評価の適用のもたらす副作用②

資源獲得のための評価の偽装

対象の選別 (cream skimming) ほか

例 アメリカの学力テスト対策

さらには、評価基準の変更

例 再犯率から、再犯者率への変更

評価の適用のもたらす副作用③

資源の偏った配分による全体不最適
競争的配分による、社会の分断
一部への集中的投資による全体の劣化
例 『科学立国の危機』

裏返しとしての、資源不配分という「処罰」
例 中国の信用スコア 監視社会化へ

<https://wired.jp/2018/06/26/china-social-credit/>

評価の適用のもたらす副作用④

資源獲得の正当化に資する成果（リターン）
の偏重

例 生保世帯の就職率の指標化
* 税金を納めます…

→ その他の成果の軽視
チャレンジの減少
長期的な取り組みの減少

評価の適用のもたらす副作用⑤

内発的動機の喪失

外発的な「指標」のための活動
プログラム化された活動の実施

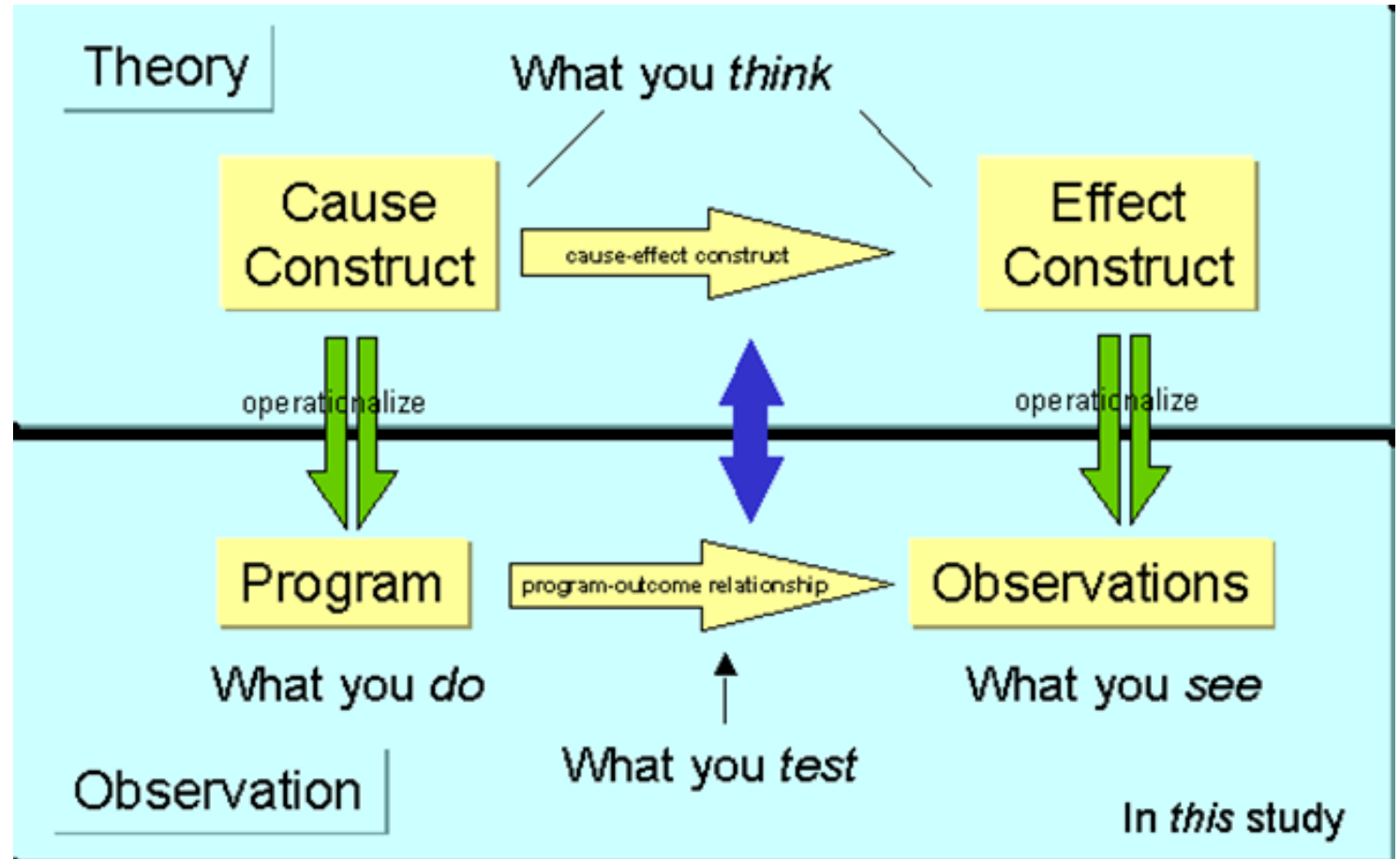
もう一度

理論レベル
知のコモンズ

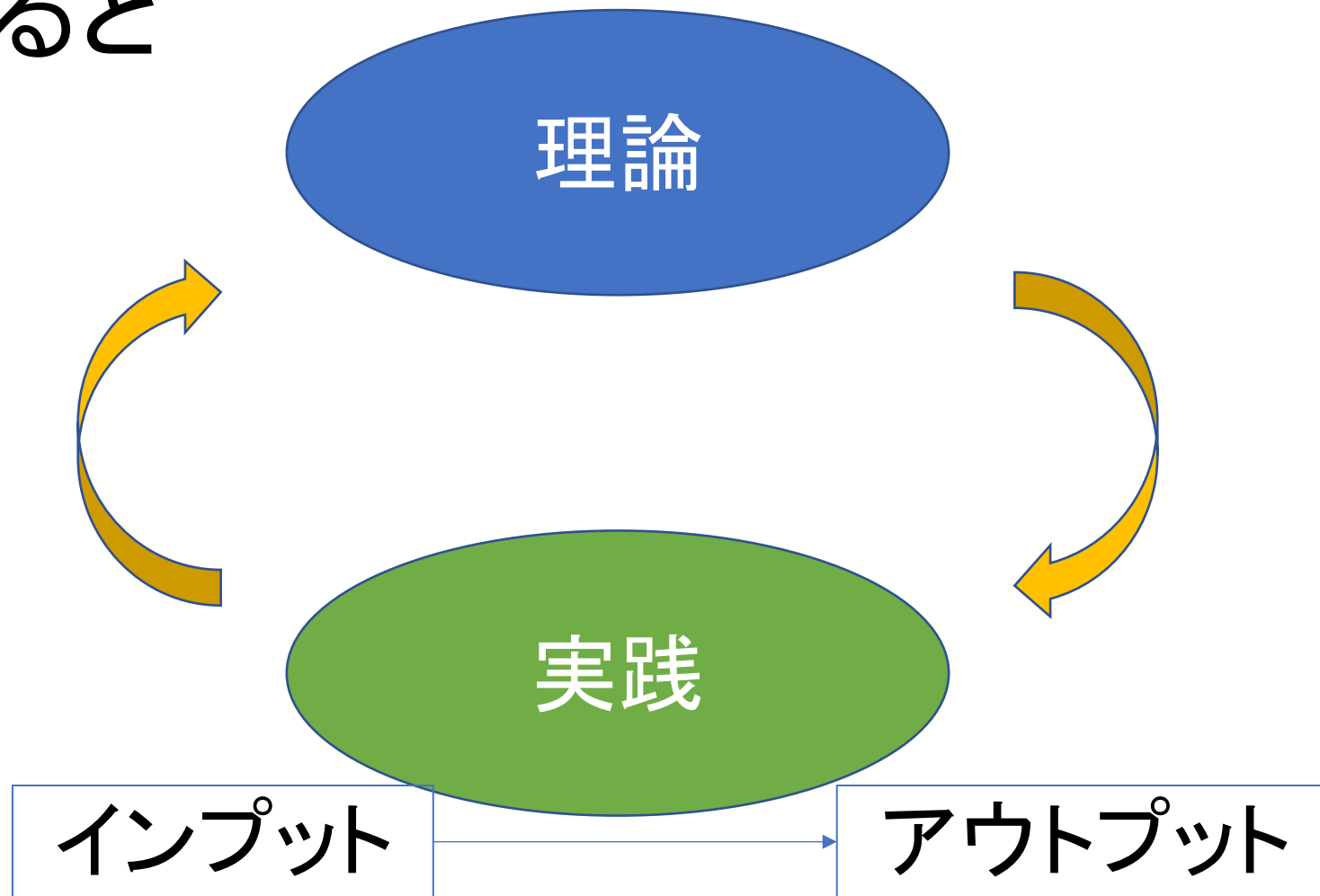
往還



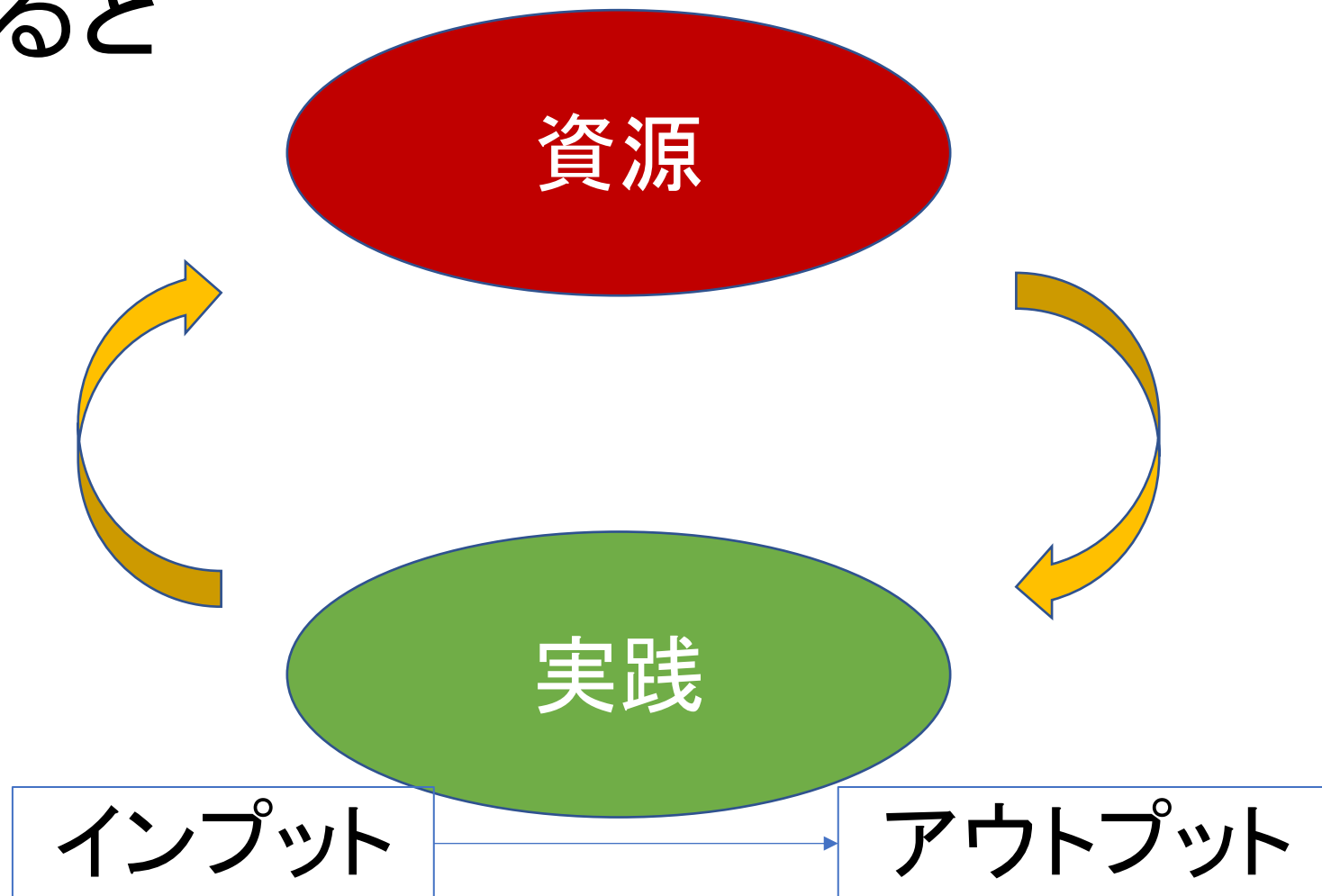
実践レベル
ケアのコモンズ



書き換えると



書き換えると



事例 休眠預金の活用における評価

休眠預金の活用の枠組み

「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」(平成28年法律第101号)

内閣府から、「休眠預金等交付金に係る資金の活用に関する基本方針」(2018年3月)

この基本方針に「評価」の語は188回も登場。

休眠預金という資源の分配を正当化する仕組み

民間公益活動

国及び地方公共団体が対応することが困難な社会の諸課題の解決を図ることを目的として民間の団体が行う公益に資する活動(第16条第1項)

- 1 子ども及び若者の支援に係る活動
- 2 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動
- 3 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動
- 4 その他

「行政」の領域にあった社会生活の領域を、民間資金が対処する領域として再定義し、「市場」化を行うもの

資本主義によって周縁化された(資本主義が生み出した)社会問題を「ビジネスチャンス」として取り込みなおす、市場の拡張

社会の諸課題の根幹にある「構造」には向き合わない

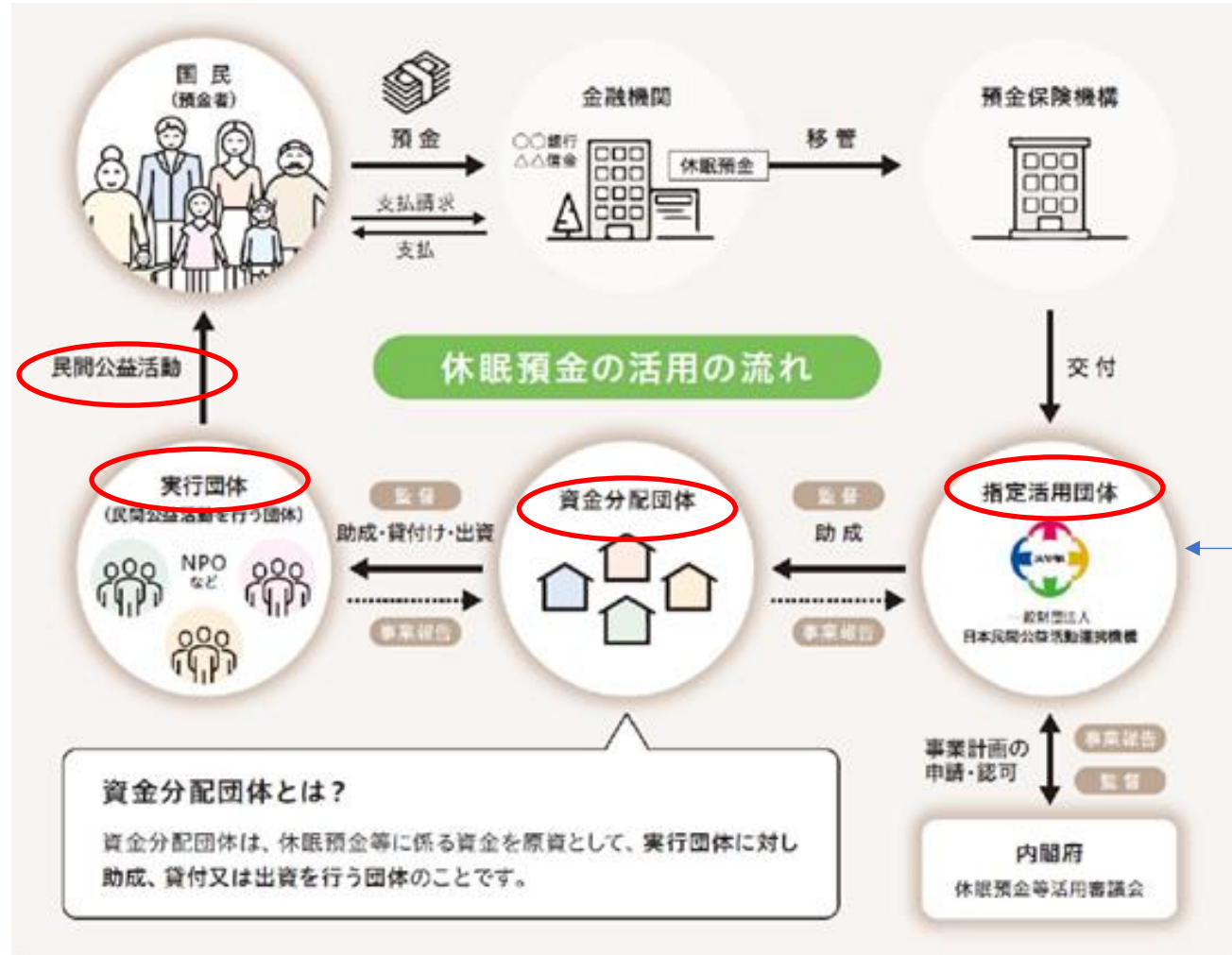
自立の強調

「資金分配団体や民間公益活動を行う団体が民間の資金を自ら調達して事業の持続可能性を確保し、社会の諸課題の解決に向けた取組を強化していくことができるようになれば、我が国の社会課題解決能力の飛躍的な向上が期待される」
(基本方針, p3)

持続可能な環境や社会に焦点を当てるのではなく、事業の持続可能性＝資金調達力に着目

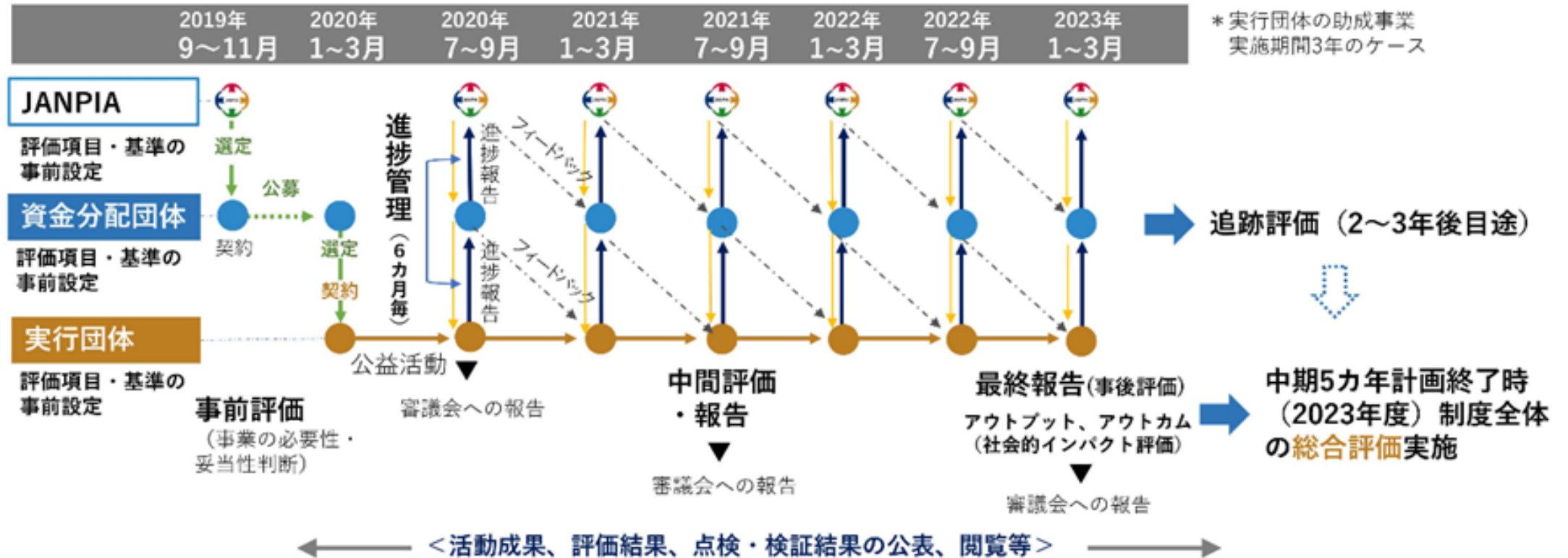
休眠預金の供給がいずれ尽きることを前提に、事業体の「自立」を強調： 自己責任論

休眠預金の活用の仕組み



経団連が母体の
一般財団法人日本民間
公益活動連携機構
(略称JANPIA)

休眠預金活用への評価の埋め込み



JANPIA(2019)

休眠預金の活用における評価のあらまし(評価指針, p2)

1. 評価の基本

(1) 評価の原義は「価値を引き出す」

(2) 評価には価値判断が伴う
「誰が」、「何のために」、「何を根拠に」

(3) 評価の目的

- 説明責任を果たす
 - 学びを改善につなげること
- + 知識の創造

休眠預金の活用における評価の特徴

- 1 アカウンタビリティが強調されている
 - 資源や正統性を共有しないステークホルダー(当事者)の軽視
- 2 事業ないし組織の評価である
 - 社会をつくることを評価しない
- 3 自己評価である
 - 理論レベルの蓄積(共通仮説の検討)は念頭にない
 - 実行団体同士の相互参照(暗黙知の共有)は念頭にない
- 4 競争的資金配分を伴う
 - 共同体を棄損する
- 5 成果の可視化を強調する
 - 対立仮説の棄却を評価しない
- 6 資源調達のための評価である
 - 社会を改善するためのエビデンスは蓄積されない

まとめ

現時点における、評価の適用は、アカウンタビリティの進展に伴うものであり、投資に対する「成果」を示すものとして位置付けられている。

ここで問われるのは、「評価は誰のためのものか」ということである。

社会介入が、社会をよくするために行われるのであれば、社会介入とは、資本主義から周縁化された当事者を、社会(私たち)の一員として、組織化するものでなければならない

評価は、このプロセスを、知とケアの往還を通じて、行う仕組みである

評価の持つ副作用を乗り越えるには、評価の置かれたコンテキスト自体を置き換えていく必要がある

自らの姿を鏡に映しだし、修正していく評価へ

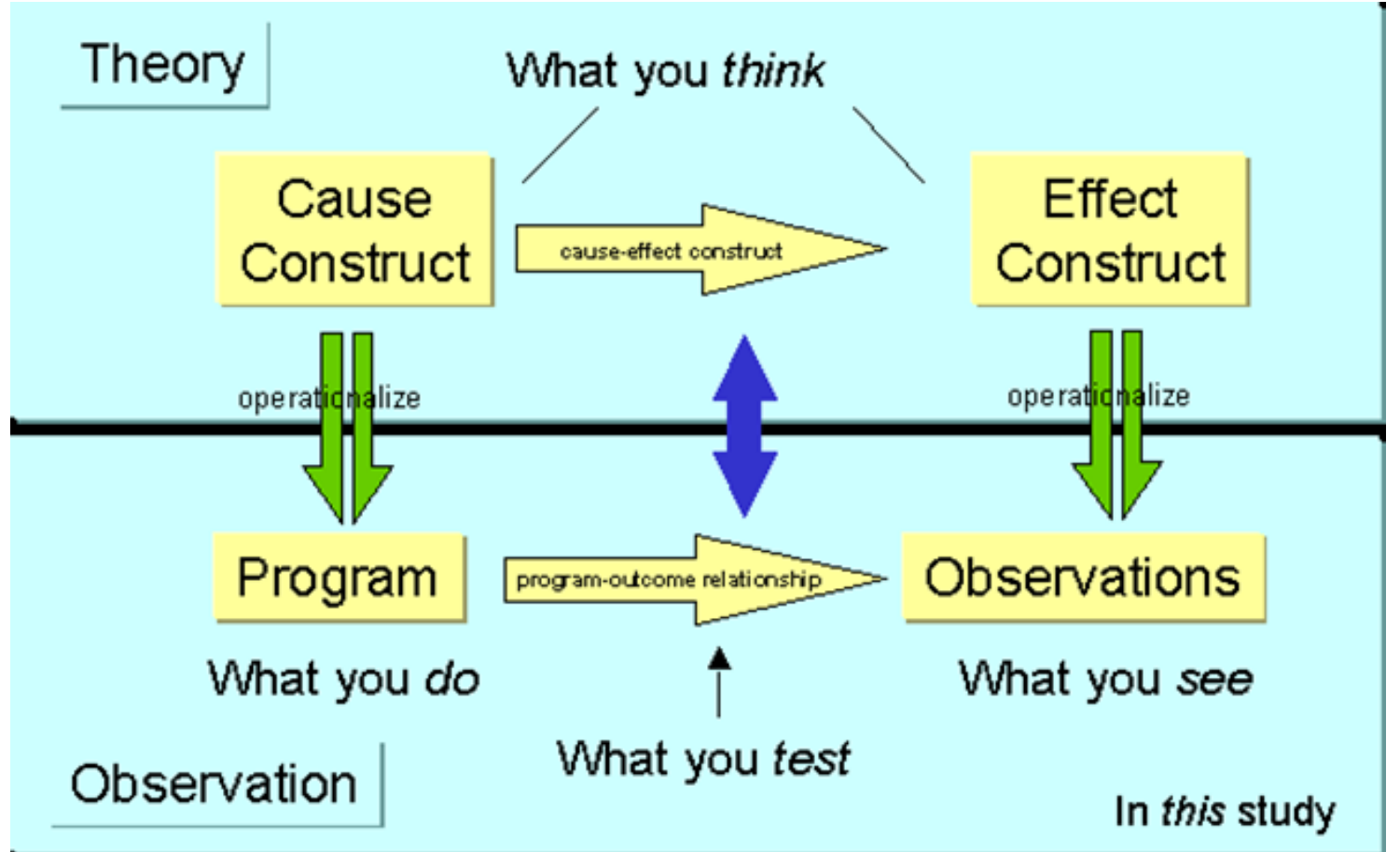
改めて

理論レベル
知のコモンズ

往還



実践レベル
ケアのコモンズ



評価研究の構造 (Trochim, 2006)

バンクス(2016)

新自由主義時代の社会福祉政策の実践モデルとして、ラディカルなモデル、専門職的なモデル、技術的＝官僚的なモデル、準ビジネスモデルなどのいくつかのモデルがある。

ラディカルなモデルにおいては、専門職は、同盟者として、集合的行為を組織し運動グループを促進する

宣伝

Social Impact Bondに関する映画会を開きます
字幕の翻訳にご協力ください




Directed and Produced by
Nadine Pequezeza

THE INVISIBLE HEART

108 Worldwide, 24 Countries, 1 Promise.

Presented by:



SORISTIC
Inform • Enable • Transform

SOCIAL IMPACT BONDS - THE CONFLUENCE OF WALL STREET AND THE SOCIAL SECTOR



Join us for an exclusive screening of "The Invisible Heart" and hear from our panel on the implications, challenges and potential of Social Impact Bonds.

21 June 2019, 2:00 pm at BLOCK71 NUS Enterprise
(71 Ayer Rajah Crescent #02-01, Singapore 139951)

For more information, visit www.soristic.asia or contact us at connect@soristic.asia

参考資料

Campbell, D. T. 1979. Assessing the Impact of Planned Social Change. *Evaluation and Program Planning* 2(1): 67-90.

JANPIA. 2019. 2019年度「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づく資金分配団体公募説明会第1部「公募要領説明」資料

----- . 2019. 資金分配団体・実行団体に向けての評価指針

Muller, J. Z. 2015. The Costs of Accountability. *The American Interest* XI (1): 18-31.

内閣府. 2018. 休眠預金等交付金に係る資金の活用に関する基本方針